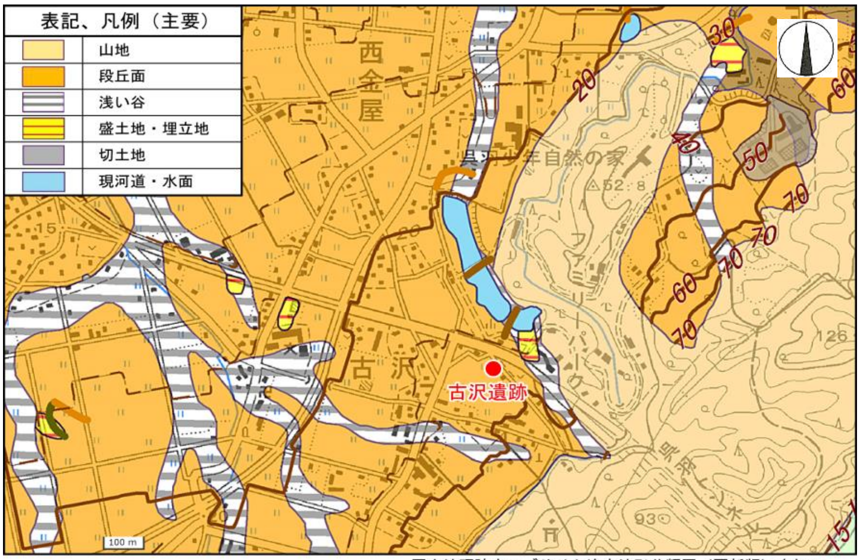
令和４年１月２５日発行

北代縄文館ミニ企画展

古沢遺跡

古沢遺跡の位置（図１）

古沢遺跡は、呉羽丘陵南西の西側に広がる旧扇状地の扇頂部付近に位置します。標高は、約２６～３０ｍで、遺跡の北東には比高差約４ｍの浅い谷があり、その斜面にも遺跡が広がっています。また、扇頂部付近の西側は、緩斜面になっており幾筋もの谷が刻まれています。



国土地理院ウェブサイト治水地形分類図（更新版）を加工

図１　古沢遺跡の位置と地形分類図

古沢遺跡と展示のあらまし

概 要

古沢遺跡は、旧石器・縄文・奈良・平安時代に営まれました。

本遺跡は、昭和３年には「日本石器時代遺物発見地名表（第５版）」に紹介されています。

今回の展示は、昭和６２（1987）年の発掘調査を基に、縄文時代の遺構や遺物について紹介します。

上記の発掘調査では住居跡は見つからず、多くの穴や土坑を確認しました。

遺 構（図２）

平面の直径が１５cm～４ｍになる５０基余りの穴や土坑を確認しました。平面形は円形、楕円形、方形で、断面はＵ字形、フラスコ形、Ｖ字形です。

主体をなすのは、平面形が直径５０cm～２ｍの円形で、断面がフラスコ形の穴や土坑です。

ＳＫ４３（図３）は長径９０cm、短径８０cmの楕円形です。断面はＵ字形で深さが２５cmです。東側は、かく乱のため失われています。

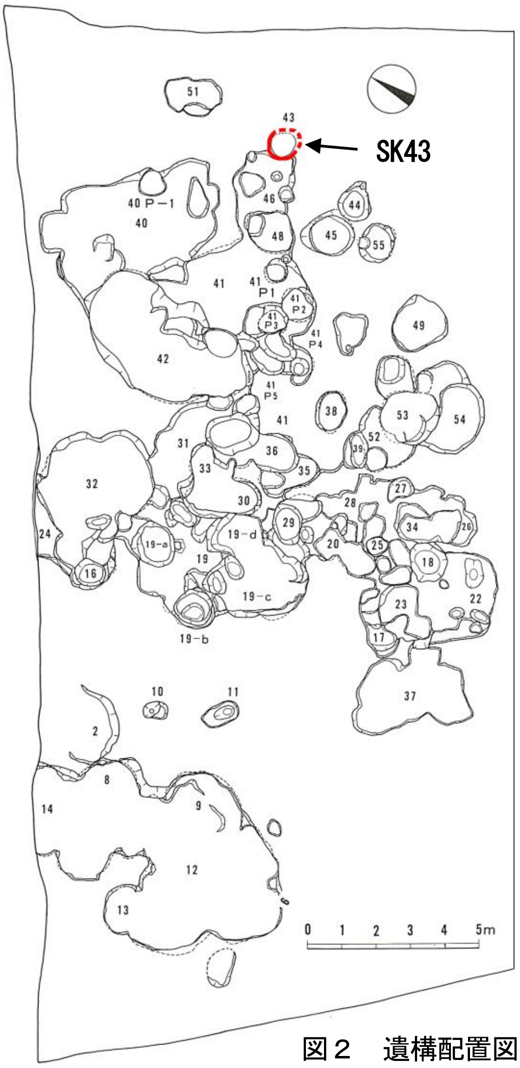


図２　遺構配置図

ＳＫ４３の上層からは、深鉢が横倒しのつぶれた状態で出土し、その脇から、斜めに傾いた状態の深鉢が出土しました。その他、深鉢の下からも複数の土器片が出土しました。出土した土器は、縄文時代中期です。

その他の穴や土坑が作られた時期は、出土した土器から、縄文時代の中期から晩期までと推測されます。

図３　ＳＫ４３

遺 物

出土遺物は、縄文時代中期から晩期の土器、石器、土製品などです。石器は、磨製石斧、打製石斧、たたき石、凹石（くぼみいし）、石棒、石刀などです。（図４）。

図４　出土した土器や石器等

土製品は、土偶、笛状土製品があります。土偶（図５）は、刺突により目を表現し、眉やひげをへら状の道具で刻んでいます。全体的にいかつい雰囲気です。背面の頭髪は、渦巻き状に盛り上げた部分をへら状の道具で刻んでいます。

図５　土偶　正面　　背面

土偶（図６）は、目や口を丸く押しくぼめており、やわらかい表情に見えます。背面は三叉（さんさ）文で頭髪を表現していると思われます。

図６　土偶　正面　　背面

笛状土製品（図７）は人面を形どっています。刺突により目、口を表現し、眉や鼻は粘土を貼り付けています。

底部の穴は、口とつながっており、吹いてみると、小さな高い音がわずかに出ますが、土笛か否かは今後の研究が待たれます。

図７ 笛状土製品 正面　　斜めから

https://www.city.toyama.toyama.jp/etc/maibun/index.htm

編集・発行　富山市教育委員会埋蔵文化財センター